

調査票は見本です。
実際の回答は WEB にてお願いいたします

介護福祉士票

介護福祉士の資格を持つ、現場のリーダー職・リーダー候補の皆様へ

令和4年1月

厚生労働省 老人保健健康増進等事業

「介護福祉士資格取得後のキャリアアップと研修活用の在り方に関する調査研究事業」

「介護福祉士のキャリアアップと研修の活用に関するアンケート調査」 (介護福祉士票) ご協力のお願い

本調査研究事業委員会 委員長 長野大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 太田貞司
(株)日本能率協会総合研究所 福祉・医療・労働政策研究部長 川村静香

【本調査の目的】

(株)日本能率協会総合研究所では、令和3年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「介護福祉士資格取得後のキャリアアップと研修活用の在り方に関する調査研究事業」に取り組んでいるところです。

現在、介護人材の確保が急務と言われている中、専門性の高い人材である介護福祉士には、継続的な質の向上と、サービス種別等に応じた多様な役割、また介護業務のマネジメントや、現場でのリーダー等、社会福祉・社会保障のスペシャリストとしてのキャリア形成を重視していくことが望まれております。そこで本事業では、特に現場でリーダーとしてご活躍いただいている介護福祉士において、これまでどのようなキャリアを歩まれてきたのか、またどのような研修を活用してきたのかを確認するとともに、現段階における知識・技術等の習得度合いについても確認することとし、これらを把握すべく調査を実施することといたしました。

これら調査結果は、厚生労働省に報告し、意欲・能力に応じて介護福祉士がキャリアアップを図っているような仕組みづくりに活用されるものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【本調査の対象】

- ・施設・事業所に所属する介護福祉士で、現在何らかのリーダーおよびリーダー候補となっている方で、労基法上の管理監督者でない方
- ※ リーダーとは、施設における主任や、フロアリーダー、ユニットリーダー、チームリーダー等の役割を担う方であり、介護職のグループ内で指導・教育やフォローを行っている方を指します。
- ※ 労基法上の管理監督者とは、労働基準法第41条に該当する方で、経営者と一体的立場にある方、労働時間、休日などに関する規制が適用されず、残業代の支給対象にない方等が該当します。
- ※ 小規模な業務上のリーダー(レクリエーションなど特定の業務のみを統括している等)は対象外とします。

【ご回答期限】 **2022年1月31日(月)までに** WEB にてご回答ください。

【本調査へのご回答に際して】

ご回答いただく際、介護保険事業所番号(10桁数字)をご入力いただきます。

【調査票の取扱いに関しまして】

ご回答いただきました内容につきましては、次のように取扱います。

- ・ 調査で得られた内容は、安全措置を講じてデータの漏洩がないように保管し、施設や回答者が特定できないよう統計処理をいたします。また、研究終了後は、個人情報に該当するデータを破棄いたします。
- ・ 調査への拒否があっても、そのことで不利益が生じることは一切ございません。

■本調査に関する問合せ先 (本調査研究事業の採択事業者)

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 5階
株式会社日本能率協会総合研究所 福祉・医療・労働政策研究部 本件担当:岡田
TEL: (フリーダイヤル)0120-304-603 (平日 10:00~17:00) FAX: 03-3432-1837

I. あなたご自身についてお伺いします。

問 1. あなたが現在就業している施設・事業所のサービス種別を教えてください。(最もあてはまるもの 1 つにチェック)

1. 介護老人福祉施設 (地域密着型含む)
2. 介護老人保健施設
3. 介護療養型医療施設、介護医療院
4. 小規模多機能型居宅介護
5. 通所リハビリテーション
6. 通所介護 (地域密着型、認知症対応型含む)
7. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
8. 特定施設入居者生活介護 (地域密着型含む)
9. 認知症対応型共同生活介護
10. 訪問介護
11. その他 ()

問 2. 問 1 でお答えいただいた、あなたが所属する施設・事業所の事業所コード(10 桁の数字)を教えてください。

事業所コード	(※10 桁で制限をかける)
--------	----------------

問 3. あなたの年齢について教えてください。(最もあてはまるもの 1 つにチェック)

1. 10 代
2. 20～24 歳
3. 25～29 歳
4. 30～34 歳
5. 35～39 歳
6. 40～44 歳
7. 45～49 歳
8. 50～54 歳
9. 55～59 歳
10. 60～64 歳
11. 65～69 歳
12. 70 歳以上

問 4. あなたの性別を教えてください。(最もあてはまるもの 1 つにチェック)

1. 男性
2. 女性
3. その他・答えたくない

介護福祉士票

問 5. あなたが、介護に関連する資格を保持していたり、以下の研修を受講済みであるかについて教えてください。(それぞれ最もあてはまるもの 1 つにチェック)

資格・研修内容	取得（受講）有無（SA）
社会福祉士	※左記それぞれ、以下の選択を表示 1. 取得している（受講済みである） 2. 未取得（未受講）であり、今後、必ず取得（受講）したい 3. 未取得（未受講）であり、今後、機会があれば取得（受講）したい 4. 未取得（未受講）であり、今後の取得（受講）は未定
社会福祉主事	
看護師・准看護師	
介護支援専門員（ケアマネジャー）	
相談支援専門員	
精神保健福祉士	
認定介護福祉士	
喀痰吸引等研修	
介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル認定	
その他（ ） ※ほかに該当する資格・研修等を保持・受講済みである場合はご記載ください	

問 6. あなたがどのようにして介護福祉士資格を取得したかについて、取得前の経験を教えてください。(最もあてはまるもの 1 つにチェック)

1. 養成施設（専門学校）卒業
2. 養成施設（短大）卒業
3. 養成施設（大学）卒業
4. 福祉系高校卒業
5. 実務経験 3 年をふまえて受験 ⇒問 6-1 へ
6. EPA 候補者として受験
7. その他（ ）

[問 6 で 5.を選択した方]

問 6-1. あなたが介護福祉士資格を取得した際、介護職としての実務経験が何年あったかについて教えてください。(1 桁もしくは 2 桁の数字を半角で入力)

【ご注意ください】

- 6 か月未満は切り捨て、6 か月以上は切り上げた数値を入力してください。
(例：3 年 5 か月なら 3 年、3 年 6 か月なら 4 年、と入力ください)
- 途中退職等によるブランクがある場合は、介護職として勤務した全期間を合算した数値を入力ください。

介護福祉士資格取得時の実務経験	実務経験(※数値 1-99 まで制限) 年
-----------------	-----------------------

問 7. あなたが介護福祉士資格を取得した後、現在まで、介護職としての実務経験が何年あるかについて教えてください。(1 桁もしくは 2 桁の数字を半角で入力)

【ご注意ください】

- 6 か月未満は切り捨て、6 か月以上は切り上げた数値を入力してください。
(例：3 年 5 か月なら 3 年、3 年 6 か月なら 4 年、と入力ください)
- 途中退職等によるブランクがある場合は、介護職として勤務した全期間を合算した数値を入力ください。

介護福祉士資格取得後の実務経験	実務経験(※数値 1-99 まで制限) 年
-----------------	-----------------------

介護福祉士票

問 8. あなたが介護福祉士の資格を取得した動機を教えてください。(あてはまるものすべてにチェック)

1. 専門職としての知識を得るため
2. 専門職としての技術（実践力）を得るため
3. 他の職員を指導する立場になるため
4. 職場より資格取得を求められたから
5. 職場で資格取得にかかる支援を受けることができたから
6. 社会的評価を得るため
7. 就職・転職に有利なため
8. 収入・身分の安定のため
9. 手当が欲しかったため
10. 国家資格だから
11. 卒業したら資格が取れたため
12. その他（ ）

問 9. あなたの、現在の就業先における勤務年数を教えてください。(1桁もしくは2桁の数字を半角で入力)

【ご注意ください】

- ▶ 6か月未満は切り捨て、6か月以上は切り上げた数値を入力してください。
(例：3年5か月なら3年、3年6か月なら4年、と入力ください)

現在の職場での 勤務年数	(※数値 1-99 まで制限) 年、現在の職場で勤務している
-----------------	--------------------------------

問 10. あなたの、現在の就業先における、雇用形態を教えてください。(最もあてはまるもの1つにチェック)

1. 正規職員
2. 契約社員（有期労働）
3. パートタイム職員（短時間労働）
4. 派遣職員（派遣会社が雇用）

問 11. 現在の就業先における、あなたの主な仕事（職位）を教えてください。複数の仕事を兼務している場合には、主たる役割の仕事を教えてください。(最もあてはまるもの1つにチェック)

1. 介護職員全体を統括する者（介護課長・介護長・介護主任など）
2. サービス提供責任者
3. 複数の介護職員の小チーム*1を統括する者（フロアリーダーなど）
4. フロアリーダーのサブリーダー
5. 介護職員の小チーム*1を統括する者（ユニットリーダー・チームリーダーなど）
6. ユニットリーダー・チームリーダーのサブリーダー
7. 訪問介護員（ホームヘルパー）、介護職員、生活支援員
8. 相談員
9. 指導員
10. その他（ ）

*1 ユニット等、5～10名の介護職員によるサービス提供チームのことをいいます。

Ⅱ. あなたの介護業務にかかる知識修得、実践の度合いについてお伺いします。

問 12. 以下の①②の項目について、あなたが現在の就業先でどの程度“実践”できているか、あなたの考えを教えてください。(それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック)

① 求められる介護福祉士像で定められている項目に関する実践度

【求められる介護福祉士像¹とは】

介護現場の中核を担う介護福祉士に求められる機能や必要な能力等を 11 項目に整理したものです。本調査では「求められる介護福祉士像」の 11 項目のうち、10 項目についてお伺いします。残りの一つは「高い倫理性の保持」です。高い倫理性の保持は 10 項目を実践していくうえで、前提として位置付けられています。

項目	左記能力についての 現場での実践度合い (SA)
尊厳と自立を支えるケアを実践する	※ それぞれ左記の項目について、以下の選択肢にご回答いただく 1. 高いレベルで実践できる 2. やや高いレベルで実践できる 3. 通常レベルで実践できる 4. 実践できることもある 5. あまり実践できない
専門職として自律的に介護過程の展開をする	
身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
QOL (生活の質) の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
介護職の中で中核的な役割を担う	

¹ 社会保障審議会 福祉部会福祉人材確保専門委員会 報告書「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」(平成 29 年)

② リーダーとして求められる能力²に関する実践度

項目		実践状態 (SA)
介護の実践	利用者の心身の状況等に係る観察ができる	※ それぞれ左記の項目について、以下の選択肢にご回答いただく 1. 高いレベルで実践できる 2. やや高いレベルで実践できる 3. 通常のレベルで実践できる 4. 実践できることもある 5. あまり実践できない
	利用者の状態に応じて適切な対応をするための判断ができる	
	認知症の症状や病状等に応じた介護等の提供ができる	
	多職種と連携しながら業務を遂行できる	
育成・指導	利用者の QOL（生活の質）の向上に資するエビデンスに基づいた介護技術の指導・伝達ができる	
	個々の介護職員の意欲・能力の把握ができる	
	上記意欲・能力の把握をしたうえで、個々の介護職員の能力を開発していくことができる	
サービスのマネジメント	介護計画に沿った介護が提供されているかを、そのサービスの質とともに把握できる	
	上記把握をしたうえで、その向上・改善に向けた対応ができる	
	サービスのマネジメントのため、多職種・多機関の間で適切に情報のやりとりができる	

【問 12②で何らかの項目について「5.あまり実践できない」を選択した方】

問 12-1. リーダーとして求められる能力で「あまり実践できない」と回答された項目に関し、あなたが今後、ご自身の能力を高めていきたいと考えているかについて教えてください。（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

研修名	今後能力を高めていきたいか (SA)
選択肢として、問 12②で「5.あまり実践できない」と回答された項目のみを全件表示し、右記順番をつけていただく	※以下の選択肢は、それぞれ左記に表示させた研修数のみとする 1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

² 厚生労働省「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」(H29.10)に定められたリーダーに求められる能力より作問しています。

Ⅲ. あなたがこれまでに受講した研修についてお伺いします。

問 13. 以下の研修について、あなたがこれまでに受講したことのある研修を教えてください。また、受講したことがある場合は、受講した時期についても教えてください。

【ご注意ください】

- 受講時期については、介護職としての実務経験何年目に受講したかを教えてください。また、実務経験年数は、現在の職場だけでなく、これまで経験した介護の職場を合算してご回答ください。なお、数値については、6か月未満は切り捨て、6か月未満は切り上げた数値を入力してください。
(例：3年5か月なら3年、3年6か月なら4年、と入力ください)

研修名	受講有無 (SA)	受講時期 (1桁もしくは 2桁の数字を半角で入力)
認知症介護実践研修 (実践者研修)	1. 受講済 2. 未受講であり、今後、必ず受講したい 3. 未受講であり、今後、機会があれば受講したい 4. 未受講であり、今後の受講は未定	※左記が1の場合、表示 介護職としての実務 経験 () 年目 に受講した
認知症介護実践研修 (リーダー研修)		
ユニットリーダー研修		
介護福祉士ファーストステップ研修		

[問 13 で何らかの研修について 2 個以上「1.受講済」を選択した方]

問 13-1. 問 13 でご回答いただいた研修について、あなたが研修を受講した順番を教えてください。(それぞれ数字で記述)

研修名表示
選択肢として、問 13 で「1.受講済」と回答された研修を全件表示し、数字で順番をつけていただく

[問 13 で「認知症介護実践研修(実践者研修)」で「1.受講済」を選択した方]

問 13-2. 「認知症介護実践研修(実践者研修)」をなぜ受講したかについて教えてください。(あてはまるものすべてにチェック)

1. 専門職としての知識を得るため
2. 専門職としての技術 (実践力) を得るため
3. 他の職員を指導する立場になるため
4. 職場より受講を求められたから
5. 職場で受講にかかる支援を受けることができたから
6. 社会的評価を得るため
7. 就職・転職に有利なため
8. 収入・身分の安定のため
9. 手当が欲しいため
10. その他 ()

[問 13 で「認知症介護実践研修(実践者研修)」で「1.受講済」を選択した方]

問 13-3. 「認知症介護実践研修(実践者研修)」を受講したことによって、どのような“**実践力**”を修得できたかについて、あてはまるものを以下の項目の中からお選びください。(あてはまるものすべてにチェック)

項目		修得できたか	
求められる介護福祉士像にかかわる項目関連	尊厳と自立を支えるケアを行うための実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	専門職として自律的に介護過程の展開をする為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>	
リーダーとして求められる能力関連	介護の実践	介護職の中で中核的な役割を担う為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		利用者の心身の状況等に係る観察をするための実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		利用者の状態に応じて適切な対応を行うための判断をするための実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
	育成・指導	認知症の症状や病状等に応じた介護等の提供をするための実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		多職種と連携しながら業務を遂行する為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		利用者の QOL（生活の質）の向上に資するエビデンスに基づいた介護技術の指導・伝達をする為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
	サービスのマネジメント	個々の介護職員の意欲・能力の把握ができる為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		上記意欲・能力の把握をしたうえで、個々の介護職員の能力を開発していく為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		介護計画に沿った介護が提供されているかを、そのサービスの質とともに把握する為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		上記把握をしたうえで、その向上・改善に向けた対応をする為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>
		サービスのマネジメントのため、多職種・多機関の間で適切に情報のやりとりをする為の実践力	該当の場合チェック <input type="checkbox"/>

以下、各研修受講済みの方については、研修ごとに問 13-2、13-3 と同様の問を作成

- 認知症介護実践研修(リーダー研修)
- ユニットリーダー研修
- 介護福祉士ファーストステップ研修

介護福祉士票

[問 13 で何らかの研修について 1 個以上「1.受講済」を選択した方]

問 14. 問 13 でご回答いただいた受講済みの研修のうち、あなたが実際に受講した時期(実務経験年数)について、どのようにお考えかを教えてください。

※問 13 で「1.受講済み」とされた研修のみを表示し、それぞれについて確認

【ご注意ください】

- 受講すべき時期については、介護職としての実務経験何年目に受講すべきかを教えてください。また、実務経験年数は、現在の職場だけでなく、これまで経験した介護の職場を合算してご回答ください。なお、数値については、6か月未満は切り捨て、6か月以上は切り上げた数値を入力してください。
(例：3年5か月なら3年、3年6か月なら4年、と入力ください)

研修名	受講した時期 (あなたの受講時の実務経験) について (SA)	受講すべき時期 (1桁もしくは2桁の数字を半角で入力)
認知症介護実践研修 (実践者研修)	1. ちょうどよいタイミングであった 2. 本来もっと早く受講すべきであった (もしくは、本来もっと遅く受講すべきであった)	※左記が 2. の場合、表示 介護職員としての 実務経験 () 年目に 受講すべきである (あった)
認知症介護実践研修 (リーダー研修)		
ユニットリーダー研修		
介護福祉士ファーストステップ研修		

問 15. 問 13 でご回答いただいた研修のうち、研修同士の受講時期が同時期になり、どちらを先に受講するか判断が必要になったケースがあるかについて、教えてください。

【ご注意ください】

- 問 13 の該当研修は以下です。
 - 認知症介護実践研修 (実践者研修)
 - 認知症介護実践研修 (リーダー研修)
 - ユニットリーダー研修
 - 介護福祉士ファーストステップ研修

1. 受講時期が同時期になったことがあった ⇒問 15-1 へ
2. 受講時期が同時期になったことはない

[問 15 で「1. 受講時期が同時期になったことがあった」を選択した方]

問 15-1. 受講すべき時期が重なった場合、先に受ける研修をどのような判断で決められたかについて教えてください。(自由記述)

※詳しくご記載ください

介護福祉士票

問 16. 問 13 でご回答いただいた研修“以外”で、あなたがこれまで受講された研修について、どのような研修を受講されたことがあるか、教えてください。

【ご注意ください】

- ▶ 問 13 の該当研修は以下です。
 - 認知症介護実践研修（実践者研修）
 - 認知症介護実践研修（リーダー研修）
 - ユニットリーダー研修
 - 介護福祉士ファーストステップ研修

研修名	受講有無 (SA)
介護福祉士実習指導者講習会	※左記それぞれ、以下の選択を表示 1. 受講経験あり 2. 未受講であり、今後、必ず受講したい 3. 未受講であり、今後、機会があれば受講したい 4. 未受講であり、今後の受講は未定
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（中堅職員編）	
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（チームリーダー編）	
事業所の管理者・施設長等になるために必要な研修 (例：老健局認知症施策関連の研修、社会福祉施設長資格認定講習会など)	
事業所のチームリーダー（ユニットリーダー等）になるために必要な研修 (例：老健局認知症施策、ユニットケア関連の研修など)	
サービス計画の作成・責任者等になるために必要な研修 (例：認知症グループホーム、小規模多機能事業所系基準の研修、サービス提供責任者研修など)	
養成学校の教員や実務者研修講師になるために必要な研修 (例：介護教員講習会、実務者研修教員講習会など)	
マネジメント、リーダーシップスキルを高めるための研修 (例：福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（管理職員編）、介護福祉士会生涯研修（チームリーダー研修）、全国老協協研修事業など)	
介護技術（生活支援技術）のスキルを高めるための研修	
介護過程実践を高めるための研修	
認知症ケアのスキルを高めるための研修	
外国人介護人材への指導や助言を行うスキルを高めるための研修	
ICT等の活用のスキルを高めるための研修	
疾病や障害等、医療に関する知識を高めるための研修	
制度やサービス等の知識を高めるための研修	

IV. あなたのこれまで、これからのキャリアについてお伺いします。

問 17. あなたが、これまで勤務したことのある施設・事業所の数を教えてください。(最もあてはまるもの1つにチェック)

1. 1施設・事業所 (現在の就業先) のみ
2. 2施設・事業所 ⇒問 17-1 へ
3. 3施設・事業所 ⇒問 17-1 へ
4. 4施設・事業所 ⇒問 17-1 へ
5. 5施設・事業所以上 ⇒問 17-1 へ

[問 17 で 1.以外を選択した方]

問 17-1. あなたがこれまで勤務したことのある施設・事業所のサービス種別を教えてください。(あてはまるものすべてにチェック)

1. 介護老人福祉施設 (地域密着型含む)
2. 介護老人保健施設
3. 介護療養型医療施設、介護医療院
4. 小規模多機能型居宅介護
5. 短期入所生活介護
6. 通所リハビリテーション
7. 通所介護 (地域密着型、認知症対応型含む)
8. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
9. 特定施設入居者生活介護 (地域密着型含む)
10. 認知症対応型共同生活介護
11. 訪問介護
12. 施設系のその他の高齢介護 ()
13. 在宅系のその他の高齢介護 ()
14. 障害者・障害児福祉関係
15. 医療関係
16. その他 ()

問 18. 現在の就業先を選んだ理由を教えてください。(あてはまるものすべてにチェック)

1. やりたい仕事だった
2. 法人・会社の理念や方針に共感した
3. 法人の安定性や将来性
4. 職場の雰囲気や人間関係が良い
5. 給与や賃金の水準に満足できた
6. 勤務形態が希望に沿う
7. 副業・兼業ができる
8. 育児や介護の支援が得られる
9. キャリアアップの可能性があった
10. 教育研修や資格取得支援等が充実している
11. その他 ()

介護福祉士票

問 19. あなたが、現在所属する施設・事業所に関してどのように感じているか、あなたの考えを教えてください。(それぞれ最もあてはまるもの 1 つにチェック)

項目	選択肢 (SA)
この施設・事業所の問題があたかも自分自身の問題であるかのように感じる	※左記それぞれ、以下の選択を表示 1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない
この施設・事業所の一員であることを誇りに思う	
この施設・事業所のメンバーであることを強く意識している	
この施設・事業所を離れるとどうなるか不安である	
今この施設・事業所を辞めたら、生活上の多くのことが混乱するだろう	
今この施設・事業所を辞めたら損失が大きいのので、この先も勤めようと思う	
この施設・事業所の人々に義理を感じるので、今辞めようとは思わない	
この施設・事業所に多くの恩義を感じる	
今この施設・事業所を辞めたら、罪悪感を感じるだろう	

問 20. あなたはご自身のキャリアの現状と今後の見通しについて、どのようにお考えですか。以下の項目について、あなたご自身の考えを教えてください。(それぞれ最もあてはまるもの 1 つにチェック)

項目	キャリアについて (SA)
介護福祉士として専門的な介護ケアを提供する	※左記それぞれ、以下の選択を表示 1. 既にある程度実現・実践できている 2. 実現・実践に向けて努力している最中である 3. まだ取り組めていないが、いつか実現・実践したい 4. 自分が目指すキャリアではない
現場のチームリーダーとして、他の介護職員・スタッフと連携しながらチーム介護を実践する	
日々の業務や研修等において、介護職員に対する技術指導を行う	
施設・事業所内外で、知識・技術指導の講師を担う	
介護福祉士以外の資格を取得して対応業務範囲を広げる	
介護部門の長、主任などの立場に立ち、部門全体のマネジメントに携わる	
施設全体の経営に携わる	

